

甕島エコツーリズム推進全体構想概要

■ 甕島エコツーリズム推進全体構想の背景と目的

甕島は、鹿児島県薩摩半島の西方約 26 k m の東シナ海上に位置し、北東から南西方向に上甕島・中甕島・下甕島と約 35 k m に 3 つの有人島を中心に形成されている列島であり、8000 万年前の姫浦層群の地層が剥き出しになっている鹿島断崖、陸繋砂州（トンボロ）や 3 つの池と東シナ海とが砂州で区切られた天然記念物の長目の浜など、多様な自然海岸を有する陸域と海域を中心とし、「太古の地球を感じる宝の島」をテーマに、平成 27 年 3 月 16 日に国定公園に指定されました。



8,000 万年前の地層・鹿島断崖

甕島は、古くから産業や貿易の要衝として栄え、里麓及び手打麓が日本遺産「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」の構成資産として登録されています。

魅力的な地形と文化を有する甕島ですが、人口は令和 5 年現在約 3,700 人と著しい減少傾向にあります。このような状況のなか、薩摩川内市では、島内外の交流の活発化と地域産業全体の隆盛による島民の所得向上や雇用機会の拡充を目的に「甕島の資源の保護と活用による観光振興を主軸とした地域振興」を基本方針とした甕島ツーリズムビジョンを策定しました。

また、平成 27 年 10 月にエコツーリズムにおいて保護と活用が求められる海、山、動植物などの自然観光資源だけでなく、甕島独自の歴史・文化、生業・生活も含め観光資源と捉えるとともに、地形・地質をはじめとした学術的な研究を深めることにより、地域の活力向上につなげていくことを目的とする「甕島ツーリズム推進協議会」を設立し、自然観光資源等の保全と利用の具体的な指針を共有するため、甕島エコツーリズム推進全体構想を策定しました。

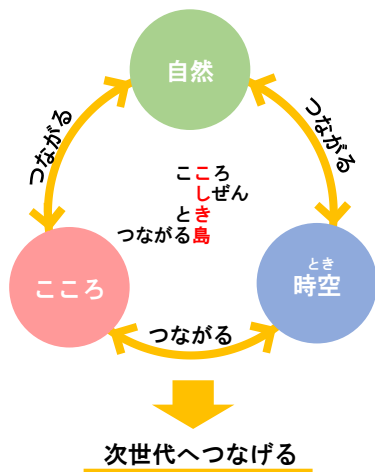
■ エコツーリズム推進の基本的な方針

島が誇る固有の風土（自然、歴史、文化）と人々の営み（生業、生活、コミュニティ）の本質的価値を理解し、守り、より魅力的な形に磨いて次世代や観光客等の来訪者に伝え、だれもが誇れる姿を次世代に受け継ぐことを理念とし、“甕島の資源の保護と活用による観光振興”を主軸とした地域振興を「甕島ツーリズムビジョン」の基本方針としています。

甕島エコツーリズム推進全体構想では、上記の甕島ツーリズムビジョンのコンセプトを踏襲し、次の基本方針のもと推進していきます。

【ここをつなげる】

甕島の生業や暮らし、歴史・文化に触れる機会を積極的に創出し、エコツーリズムを通じて、甕島の人々とエコツアーの参加者が関わりあい、甕島の住民の優しさや、暮らしの魅力に触れる場をつくれます。



【自然をつなげる】

国定公園に指定された甕島は、雄大な自然を有する島です。エコツーリズムを通じ、島民とエコツアーの参加者が甕島の自然に触れ、甕島の自然のすばらしさを感じるとともに、保全や活用の考えが地域に根付くような機会をつくり出します。

【時空（とき）をつなげる】

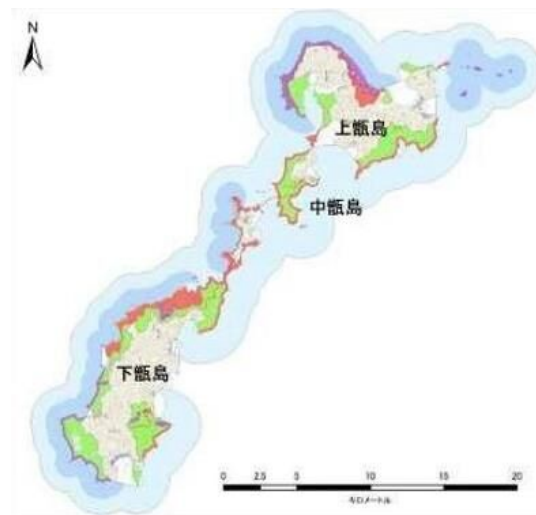
甕島は8,000万年前から長い年月をかけて創られてきた地形や歴史・文化が根付いており、それらを五感で感じることができる場所です。甕島のエコツアーで過ごす「時」を通じて、甕島の現在・過去・未来を体感できるような機会を創出します。

【つながる】

「こころ」、「自然」、「時空」が一体的につながるような甕島エコツーリズムを推進します。甕島は、貴重な動植物や地形・地質、歴史・文化を有しています。これらの「甕島の宝物」を守り、学び、活用し、伝え、次世代に受け継ぎます。

■ エコツーリズムを推進する地域

甕島全域に自然観光資源などが存在していること、全域においてエコツーリズム推進のための基盤整備と地域住民の一体感醸成が必要となることから、エコツーリズムを推進する地域の範囲は、甕島の陸域全域と周辺海域（国定公園内海域公園地区）を対象とします。



甕島国定公園

■ 対象となる自然観光資源

《動植物の生息地又は生育地その他の自然環境に係る観光資源》

- ・動物（チュウサギ、クロツラヘラサギ、ミサゴ、ハイタカ、サシバ、ハヤブサ、セイトカシギ、カラスバト、コシキトゲオトンボ、クロマチウム）
- ・植物（コシキギク、ハマナツメ、コシキイトラッキョウ、コシキジマハギ、カノコユリ）
- ・動植物の生息・生育地（尾岳、谷山、瀬尾崎、貝池）、
- ・地形・地質・自然景観（鹿島断崖、トンボロ、長目の浜、みっちり草原）

《自然環境と密接な関係を有する風俗習慣その他の伝統的な生活文化に係る観光資源》

- ・歴史資産（里麓、手打麓）
- ・伝統文化（ユネスコ無形文化遺産トシドン、かずらたて、内侍舞）
- ・生活空間・風景（集落構造（風対応）、里地区のしのう小屋）
- ・伝統産業（ビーダナシ、キビナゴ漁、タカエビ漁、定置網、焼酎）



カノコユリ



甕島のトシドン

■ エコツアーリズムの実施方法

《ルールの設定及び実施》

甕島エコツアーリズム推進全体構想では、下記の 5 区分を保護・維持・向上する対象とし、ルールを設定します。

このルールや島内の土地所有・生業の状況（ツアーで立ち入ってはいけない場所・海域等）に基づき、参加者を案内する場所、案内してはいけない場所、参加者への注意喚起が必要な場所等について協議会やツアー実施者と共有のうえ、甕島インタープリターを中心にエコツアーリズムを実施します。

1 参加者の安全

ツアーにおいて参加者の安全を確保することは最も重要です。また、参加者の満足度に大きくつながるツアーの快適性も重視するルールを設定します。

2 自然観光資源の保全・保護

甕島に生息・生育している貴重な動植物の生態系や長年受け継がれてきた伝統や文化を保護するとともに、自然環境に悪影響を与えないルールを設定します。

また、ツアーの内容に応じた適切な参加基準・人数を設定します。

3 地域住民の生業・生活環境の保護

島全域がエコツアーリズム推進地域であるため生活環境保護のために地域住民とのコミュニケーションが重要です。このためエコツアー参加者と地域住民とが積極的に関わりを持てるプログラムを開催するとともに、地元で栽培された野菜や水揚げされた魚介類などの積極的な活用により、地域住民の積極的な参加を促すエコツアーを実施します。



地元食材で作った節句料理

4 ツアーの質の向上

ツアーの質の向上は、参加者の満足度と地域の知名度の向上につながることから、ガイド育成など質の向上に向けた取組みのルールを設定します。

5 その他環境全般の保護

エコツアーで活用されている自然観光資源の状況について継続的なモニタリングを行

い、変化の早期発見に努め、改善を行い、自然観光資源の保護を図ります。

《主なプログラムの内容》

- 食でつながるエコツアー（食×生活空間・風景、伝統文化）
 - ・島の台所：島のお母さんによる伝統料理づくり教室
- 人でつながるエコツアー（人×生活空間・風景）
 - ・地元の住民による案内と集落散策
 - ・しまなび～島の日常を体感する旅
- 海でつながるエコツアー（海×自然観光資源）
 - ・シーカヤックで、8,000 万年前の断崖にロマンを馳せ地質を学ぶ
 - ・海岸漂着ゴミ清掃とビーチコーミング
- 陸でつながるエコツアー（陸×自然観光資源、動植物）
 - ・甕島の夜を楽しむナイトツアー
 - ・海岸漂着物で海洋生物の生態や進化を学ぶ
- 歴史でつながるエコツアー（歴史×伝統文化）
 - ・日本遺産麓武家屋敷散策、集落内での郷土料理、郷土菓子体験
 - ・島民と一緒に伝統を守る行事体験
- 8, 0 0 0 万年前の時空でつながるエコツアー（化石・地層×自然観光資源）
 - ・化石発掘&化石クリーニング体験
 - ・地層の専門家と断崖トレッキング

《モニタリング及び評価》

エコツアーで活用されている自然観光資源の状況について継続的な点検（モニタリング）を行い、変化の早期発見に努め、改善を行い、自然観光資源の保護を図ります。

《情報発信》

甕島のエコツーリズムに関する情報を地域内外に幅広く提供します。島外からのツアー参加者に向け、ホームページやマスメディア等を活用し、効果的な情報発信を行います。

《ガイドの育成》

薩摩川内市では「薩摩川内市観光ガイド公認制度」を設け、ガイドの育成と質の向上に努めています。

また、エコツアーガイドは、甕島を案内するだけでなくプログラム企画・コーディネート・情報発信など、甕島エコツーリズムを推進するために必要不可欠な各役割を担い、人材の発掘、育成に努めています。

■ 全体構想の公表と見直し

《全体構想の公表》

全体構想は、市の広報紙、ホームページ等で公表します。また、甕島エコツーリズム推進全体構想の説明及び周知に努めます。

《全体構想の見直し》

協議会は、全体構想について毎年点検を行い、概ね5年を目途に見直しを行います。ただし、早急に改善することが必要と判断された場合、速やかに見直すこととします。